



冷え込みで生育はやや鈍いが食味は良好 オール栃木で「栃木のにら」をPR！

J A全農とちぎ「にら」試食宣伝会

- 期日：2月1日(木)
- 場所：大田市場 東京青果(株)、東京荏原青果(株)
- 主催：J A全農とちぎ・栃木県
- 内容：栃木県産にら紹介や試食宣伝等

■栃木県のにら入荷量は増加傾向！

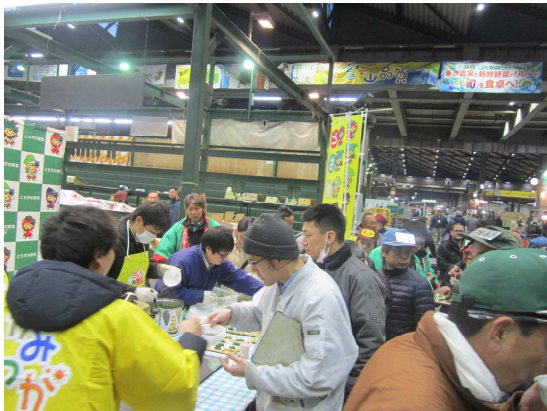
これから栃木県産にらがピークを迎えることから、J A全農とちぎと栃木県職員が、産地からJ Aはが野・J Aかみつがの生産者とJ A職員が多数来場し、試食宣伝会が開催されました。栃木県のH29年都中央野菜入荷量の上位5品目は、トマト、まめもやし、なす、にら、ねぎで、その占有率はトマトが15%（都中央入荷量2位）、まめもやし36%（同1位）、なすが13%（同3位）、にらが37%（同1位）、ねぎが5%（同7位）となっています。にらの都中央入荷量は、各県横ばい～減少傾向の中、栃木県の入荷量伸長率（H29/H24）は113%とかなりの増加傾向となっています。（群馬県の同入荷量は8位で占有率は2%、同入荷量伸長率は47%と減少傾向）

当日は、栃木県のにらの特徴と「にら焼き」や「にらしゃぶ」等5種類のレシピ等が載っているリーフレットの配布や「にらのナムル」と「にらの中華風スープ」が試食提供され、市場関係者に食味の良さをPRしていました。

■栃木県にら生産量の日本一奪回に向けた取組！

栃木県はH26年に葉が厚く葉幅が広く、収穫作業がしやすいため収量性が高いにら新品種「ゆめみどり」を育成しました。この新品種と、従来の年間収穫回数を2倍に増やす「1年1作型栽培（1年間で6～7回収穫）」や栃木県で推進している保温技術「ウォーターカーテン」を組み合わせ、生産性の飛躍的な向上を目指しています。平成27年度は、栃木県内において、現地技術実証展示ほで試験が行われ、新品種「ゆめみどり」は対照品種よりも品質向上や収量増加が確認されています。

栃木県のにらは、かつて生産量日本一でしたが、H18年に温暖な気候で反収の高い高知県に首位を明け渡しています。栃木県は、にら新品種「ゆめみどり」と新たな作型や従来の栽培技術を組み合わせ、にらの生産性向上を図り、にら生産量日本一奪回を目指しています。



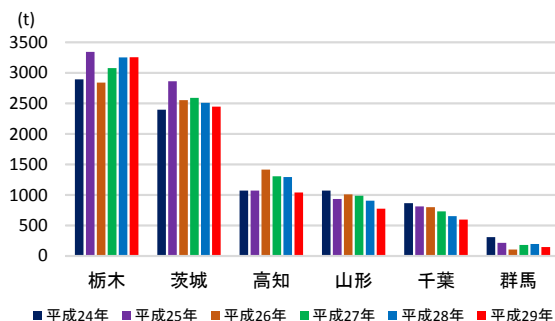
試食宣伝の様子



「にらのナムル」とリーフレット

栃木県入荷量順位	品目名	数量(t)	割合(%)	5年前からの増加率(%)
1	トマト	12,648	28.2%	121.2%
2	まめもやし	6,756	15.1%	256.1%
3	なす	4,908	11.0%	86.7%
4	にら	3,258	7.3%	112.6%
5	ねぎ	2,871	6.4%	124.2%
6	きゅうり	2,061	4.6%	74.6%
7	レタス	1,921	4.3%	93.5%
8	ほうれんそう	1,671	3.7%	104.4%
9	たまねぎ	1,425	3.2%	256.1%
10	だいこん	947	2.1%	113.3%
栃木県野菜総量		44,783	—	119.8%

H29年都中央の栃木県野菜入荷量上位10品目



都中央にら入荷量の推移 (H24～H29)